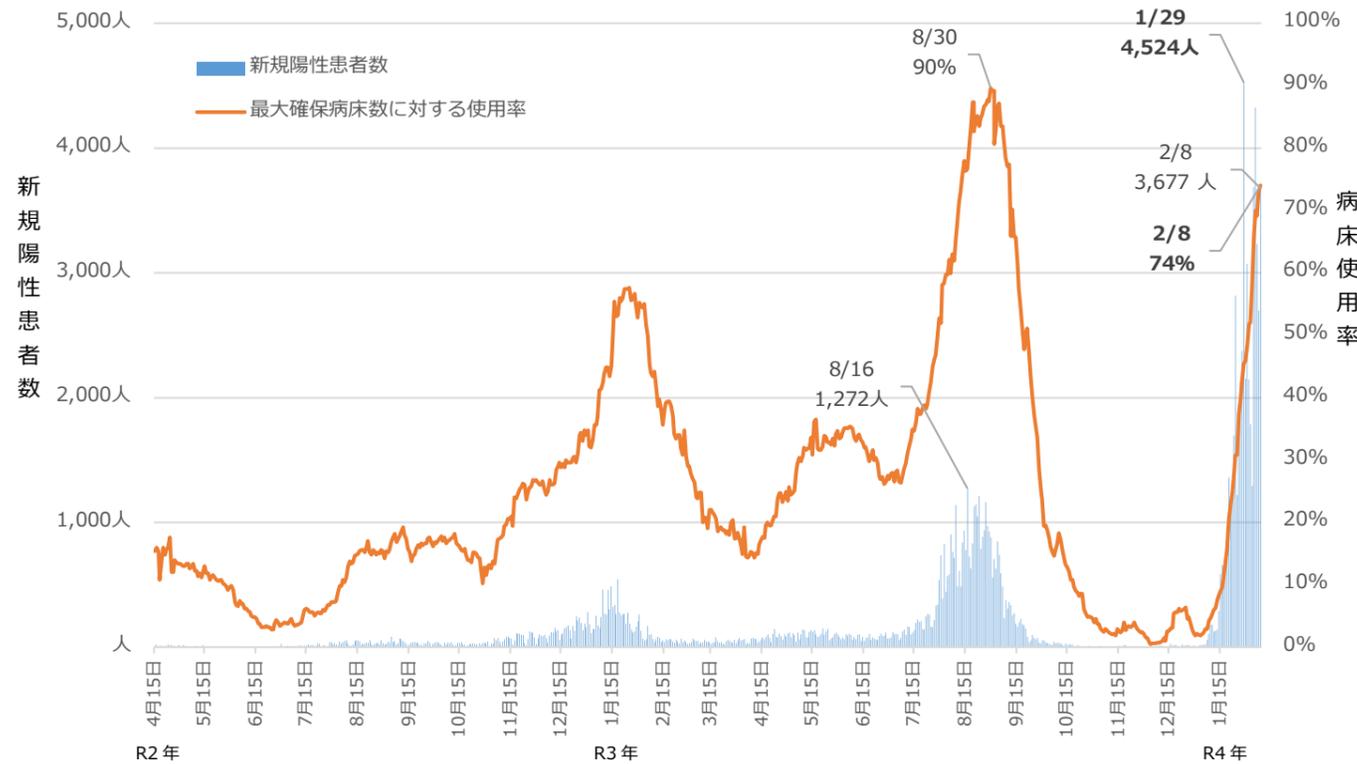


新型コロナウイルス感染症の医療提供体制について

1 新規陽性患者数と病床使用率（令和4年2月8日時点）

第5波では、昨年7月下旬から新規陽性患者数が急増し、8月30日には病床使用率が9割となるなど、病床がひっ迫しました。第6波では、新規陽性患者数は1月29日に過去最大の4,524人、病床使用率は2月8日時点で74%となっています。



2 重症用病床の使用状況（令和4年2月8日時点）

第5波では、重症患者用の確保病床数99床に対し、最大88床まで使用され、人工呼吸器やECMOを使用する患者さんも多くいましたが、第6波では、2月8日時点で36床、うち人工呼吸器使用数5、ECMO使用数0となっています。



※市内のコロナ患者受入医療機関からの報告・県立病院を除く

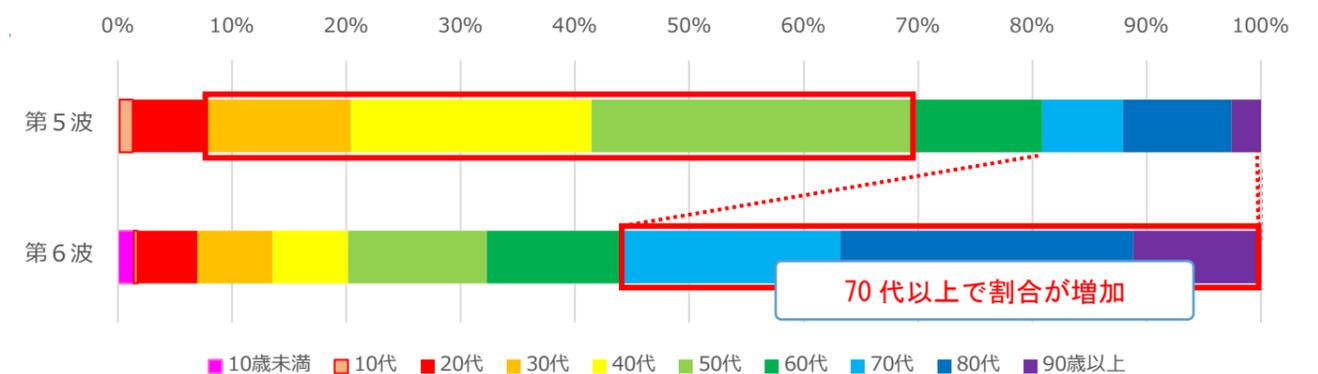
3 第5波と第6波の患者像の比較

（分析対象期間：第5波＝令和3年8月1日～31日 第6波＝令和4年1月1日～31日）

Y-CERTが入院調整を行った患者さんの年齢層について、第5波では、30代から50代が中心でしたが、第6波では、新規陽性患者数の5%程度である「70代以上」が全体の半数以上を占めています。

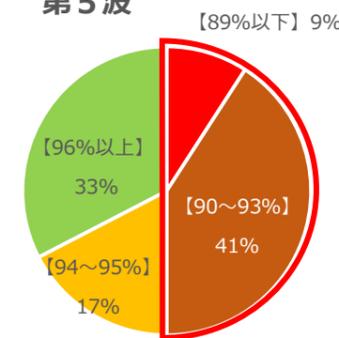
また、症状について、第5波では、酸素飽和度が93%を下回る中等症Ⅱ（呼吸不全あり）以上の患者さんが半数を占めていたのに対し、第6波では、中等症Ⅱ以上の患者さんの割合が低く、軽症や中等症Ⅰ（呼吸不全なし）の患者さんが約7割となっています。

Y-CERT調整患者の年齢層の割合

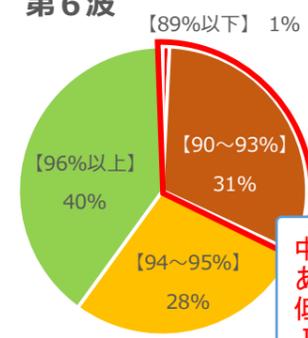


Y-CERT調整患者の酸素飽和度（SpO₂）値の割合

第5波



第6波



中等症Ⅱ（呼吸不全あり）以上の割合が低く、軽症や中等症Ⅰ（呼吸不全なし）が約7割

4 陽性患者用病床の推移

本市では、市内医療機関の協力のもと、陽性患者用病床数を第5波から24%増となる849床確保しています。今後、高齢者に感染が拡大するなど、入院が必要な方が更に増えた場合にも、病床を有効に活用できるよう、Y-CERTが病状に合わせて適切に入院調整や転院調整を行い、救急やがん診療などの一般医療と感染症医療との両立を図っていきます。

	R3. 4. 13	R3. 9. 1 (第5波)	R4. 2. 1 (第6波)
陽性患者用病床	554床	685床	849床
うち重症用	86床	99床	101床

（県立病院を除く）